



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

企画展「星野家文書の世界」を開催中です

3月に小城市重要文化財に指定された「星野家文書」を紹介します。

星野氏は南北朝時代（1336～1392年）に筑後地方（現 八女市星野村・うきは市付近）で繁栄した豪族で、戦国時代には大友氏や島津氏に属し、鍋島氏に仕えるようになりました。

小城鍋島家が創設された時に、初代元茂^{もとしげ}の家臣となり、江戸時代を通じて小城藩士星野家として存続します。

本展示会では、戦国時代から幕末明治期にかけての文書類を展示しています。

◆期間 ～9月1日(日)

◆場所 歴史資料館
企画展示室

◆観覧料 無料



▲島津義久書状
しまづよひさ
天正14年島津氏に属し戦死した星野氏に対して、感謝の意を伝えるものです。

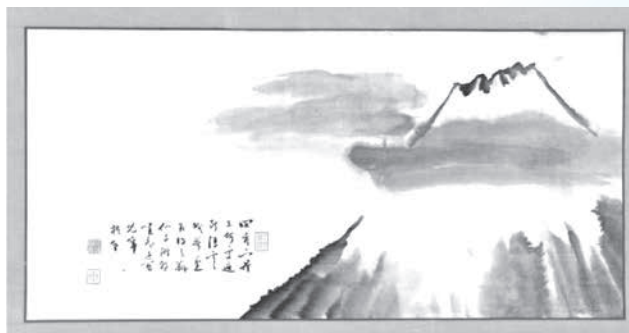
第2期収藏品展「旅する梧竹」を開催中です

中林梧竹は日本各地や清国（現在の中国）を旅し、多くの作品を生み出しました。今回の収藏品展では梧竹が各地で書いた作品を中心に展示し、その足跡を紹介します。

◆期間 ～10月13日(日)

◆場所 中林梧竹記念館

◆観覧料 200円（大学生以下無料）



▲《富士山図》(70歳代前半)
富士山（静岡県）

おぎの歴史探検隊

異説・青木繁の《朝日》〈その2〉

小城郷土史研究会

青木繁^{あおきしげる}が有名になったのはそれなりの理由がある。

うことだがそれらのことについては何も触れられていない。

ある本には「平島信^{ひらしましん}の斡旋によって小城高校に収められた」と小さく記されているが、その斡旋とはどのような事だったかについて、推論であるが述べてみたい。

明治43（1910）年7月、かつて画塾・不同舎とともに学び、小城中学校の図画教師であった平島信を訪ね、気心知れた友にお世話になりながら静養に努めた。（続）

まず、第1に明治という天皇主権の時代、『古事記』『日本書紀』からみえる日本神話を題材にし、それらを大胆かつ奔放な筆致^{ひつち}で描き画壇に鮮烈な印象を与えた事。第2に画壇に新風を起こしながらも晩年は放浪の身であった事。最後に貧困薄幸の中28歳の若さで亡くなったために作品数が少ない事。

地元郷土誌『新郷土』昭和59年5月～8月の4カ月間にかけて調査研究された小城町・古賀次郎^{こがじろう}氏が執筆された『青木繁と小城・その周辺』の文章の中には、「小城における評伝の内容に、諸々の説と、疑問点や不明の箇所が多々あることを知った」とあるがその中に「何故、青木繁の朝日が小城高校にあるのか、また疑問点や不明な箇所が多々ある」と言

▶《朝日》
（佐賀県重要文化財
黄城会所蔵）



◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132